

日本トルクメニスタン経済委員会・トルクメニスタン日本経済委員会
第5回合同会議議定書

2003年4月22日から23日の間、トルクメニスタンの首都アシガバードにおいて、「日本トルクメニスタン経済委員会・トルクメニスタン日本経済委員会第5回合同会議」を開催した。

合同会議の開催に先だって、トルクメニスタン大統領サパルムラド・トルクメンバシ閣下は室伏 稔・日本トルクメニスタン経済委員会会長ならびに日本側代表団団員と会見した。

「日本トルクメニスタン経済委員会・トルクメニスタン日本経済委員会第5回合同会議」では、日本側団長は、室伏 稔・日本トルクメニスタン経済委員会会長／伊藤忠商事株式会社取締役会長が、トルクメニスタン側団長はグルバンムラドフ E.・トルクメニスタン日本経済委員会会長／トルクメニスタン副首相が務めた。

第5回合同会議の冒頭には、トルクメニスタン大統領サパルムラド・トルクメンバシ閣下の親書が伝えられ、その後、室伏 稔・日本トルクメニスタン経済委員会会長が報告した。

合同会議には、両国の経済委員会メンバー：政府機関、経済界の代表者が参加した。報告では、両国経済委員会が、トルクメニスタンと日本の経済発展に果たす役割が高く評価され、トルクメニスタンと日本との間の通商経済関係の状況について満足の意が表された。さらに、トルクメニスタンと日本との協力はすでに強固な基盤があり、両国間の関係をさらに段階的に発展させる重要な要因であることを指摘した。

トルクメニスタン側は、トルクメニスタン大統領プログラム「2010年までのトルクメニスタンにおける社会・経済改革戦略」プログラム、トルクメニスタン大統領サパルムラド・トルクメンバシの指導の下に行われている国家の経済的自立、市場改革、対外経済関係の拡大、国際金融機関の評価を目指すための最近の進捗状況について報告した。

トルクメニスタンの豊富な天然資源と人的資源に着目して、これらが日本からの投資と最新の技術の誘致を可能としていることに鑑み、合同会議では次の結果があった。

1. 双方は、日本の資本と最新の技術をトルクメニスタンの経済に効率的に参入させること、さらに、以下のような投資案件でのそれらの役割を高めるための仕事を継続することに合意した。
 - ・ 石油ガス工業
 - －カスピ海大陸棚のトルクメニスタン部分での石油ガス資源の共同開発
 - －石油ガス資源の輸送案件の実現への参画
 - －ガザチャック村でのガス化学コンプレックスの建設プロジェクトへの参画

- ・ 運輸・通信
 - － 運輸、通信、コミュニケーション分野におけるプロジェクトの実施

- ・ 軽工業
 - － 野菜・肉乳製品加工の中小企業の設立
 - － トルクメニスタンの食品工業における加工企業の改善
 - － トルクメニスタンの繊維工場建設への参画

- ・ エネルギーおよび工業分野
 - － ガラボガズル湾の有望資源およびヨード含有水資源の開発
 - － 鉱物資源の探査・採掘への参画

2. 双方は、双方にとって都合の良い時期に、「日本トルクメニスタン経済委員会・トルクメニスタン日本経済委員会第6回合同会議」を東京において開催することで合意した。

「日本トルクメニスタン経済委員会・トルクメニスタン日本経済委員会第5回合同会議」は友好的な雰囲気の中で行われ、両国の発展のために双方の立証された利害の一致に基づき、新たな可能性と現実を考慮した互恵の協力が継続されるようトルクメニスタンと日本の期待が表明された。

本議定書は、2003年4月22日、アシガバードで日本語ならびにトルクメニスタン語各2部が作成、調印され、各々議定書は同等の効力を有する。

室伏 稔
日本トルクメニスタン経済委員会会長
伊藤忠商事株式会社取締役会長

グルバムラドフ E. .
トルクメニスタン日本経済委員会会長
トルクメニスタン副首相